

事業所名	スポーツコミュニケーションスクール カラフル富山けやき通り校				公表日	2026年 3月 5日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	83%	17%	小集団で活動場所を分けるなど工夫し、配慮されていると思う。	カラフルスタジアムの広さは充分であるが、室内でのプログラム時には手狭に感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	50%	50%	プログラム時には充分に支援できる体制になっている。	入れ替わりが激しい。職員はもう少しゆとりが必要。また、専門性のある職員や経験者が少ない。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	67%	33%	遊び、プログラム、学習のスペースを分けるとともに視覚的な手掛かりを用いて、子どもが活動の見通しを立てやすいように構造化されている。	バリアフリー化については今後の検討課題である。現在、特に身体的サポートが必要な利用者がいないので、物理的なバリアフリーは必要ないと思われるが、段差、玄関ドアなどを見直さなければいけないと思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	83%	17%	模様替えなどをしている。毎日決まった時間に清掃、消毒をし、常に清潔で衛生的な生活環境を維持している。掃除の担当場所を決め、日々丁寧に掃除をし、子ども達の様子を見ながら環境設定を工夫している。	建物の老朽化、経年では否めないが、時代に合わせた空間、環境を整えなければいけないと思う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	50%	50%	クールダウンできるスペースを特に設けてはいないが、必要に応じてリラックススペースの確保や心地よく過ごせるようにしている。職員室や個別の空間を作る工夫はしている。	二階で宿題をしたりすることができるが、パーテーション等を使用して空間を分けたりしてもよい。個別の部屋があると良い。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	67%	33%	法人全体、事業所単位、それぞれの立場や役割を通して業務の改善について活発に意見交換をしている。ミーティングで意見を出し合っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	83%	17%	連絡ツールや支援記録等で意見を頂き、コミュニケーションをとりながら運営に反映させている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	83%	17%	毎日の支援会議や日報において、職員それぞれが意見を伝え合える環境がある。ミーティングでの意見交換をしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	50%	50%		今後は第三者評価については、意見を聞き機会を持つようにする
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		月に1回、法人全体での内部研修会、月に2~3回の事業所内研修を行っている。オンラインでの講義、対面など様々な場所や外部講師から学ぶことで職員の資質向上を図っている。	法人内で毎月研修がある。外部の研修にもっと参加したいと思う。より具体性のある研修が必要。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		毎日、担当職員が立案、実践している。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	83%	17%		保護者との日程調整に時間を要するため、職員全体で連絡を密にしながら、課題分析していきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	83%	17%	日常的な支援、支援会議、中間評価など、職員全体で常に共有しながら支援が行われている。	作成の際にも職員の共通理解は必要。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		計画に沿った支援については、個人の経験やスキルの差はあるが、共有の機会を持つようになっている。中間評価の際は、計画に沿っているかを見直す機会として大切にしている。	個別支援計画を共有する場がもっとあればよりよい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	83%	17%	毎日の支援記録に記されている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	67%	33%	移行支援、地域支援・連携の機会は少ないが、地域の団体や企業との連携(NTTカターレ富山)を行い保護者、利用児を巻き込んで活動を行った実績がある。カターレ富山さんとのプログラムがある。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	67%	33%	ミーティングでプログラム案について検討している。	曜日の担当者が一人で立案しているため、チームできるとよりよい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		行ったあと必ずフィードバックの時間を設けている。担当者を日替わりしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	83%	17%		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		サポートが必要な利用者に担当を決める。支援会議が活性化されてきている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	67%	33%	支援終了後ではなく、翌日に行っている。その日のフィードバックは難しいので、翌日に回すことが多い。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	83%	17%		メモからでも記録を取る習慣をつけるよう心がける。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			共有し、見直しをする機会がもっともとるとよりよい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	100%			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	83%	17%	特性や発達段階にもよるが、選択肢を与えたり、代替行動を提案したりしながら意思決定できる機会を多く持つようしている。プログラム時や目標決めの時に、意見を募り発表している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	50%	50%		医療関係者、教育関係者との連携は、断られることもあり、あまり活発には行っていない。外部連携についてはまだ体制が不十分。関係機関との連携は必要だと思う。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	100%		保護者を通して共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	50%	50%		就学前の機関との連携は行っていない。情報共有があれば良いと思う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	33%	67%		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	67%	33%		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	33%	67%		法人内の放課後等デイサービスとの交流。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	33%	67%		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	83%	17%		日々の保護者とのコミュニケーションが必要。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	50%	50%	ゲーム依存についてや保護者の茶話会などを定期的に開催した。		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			LINE以外のツールも用いた説明があればよりよいと思う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	83%	17%	サポートシートを作成し、ニーズの調査を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	83%	17%		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	83%	17%		保護者が気軽に相談できる雰囲気を作っているとよいと思う。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	50%	50%		回数が少ない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	83%	17%	苦情はほとんどないが、問題提議された場合は即時対応している。職員間での報連相を迅速にし、保護者への対応を早くする。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		インスタグラムでの情報の発信をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	83%	17%	インスタグラム、メディアなどに載せてもいいか許可を取っている。	受給者証や重要書類の扱い等、意識の改善が必要だと思う。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	33%	67%		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			訓練の機会は少ない。マニュアルはあるが、周知や訓練を増やしていくとよい。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	83%	17%		訓練の機会は少ない。避難、訓練の機会を増やすとよい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	67%	33%		はっきりと分かっていないことが多いので、情報共有が必要だと思う。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	83%	17%		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	83%	17%		法定研修のみで、訓練の機会が少ない。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	83%	17%		契約の際のみになっている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		年に2回以上行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	83%	17%		